

6 月定例教育委員会会議録【概要版】

開催年月日	令和5年6月19日（月）	場 所	市役所本庁 災害対策本部室
開催時間	13時30分 から 14時35分まで		
出席者	教育長	澤野 幸司	
	教育委員	宮田 靖、久世由美子、高橋勝栄、甲斐千尋	
	参 与	丸山真二、志道里香、竹光俊司、瀬之口博行、早瀬誠一郎、山田 聡、 工藤靖治、山本栄作、太田康晶、岡田健一、下野隆平	

◎ 議 事

◆議案第8号 延岡市立図書館協議会委員の委嘱について（図書館）

- 図書館長より、令和5年6月30日をもって任期満了となる延岡市立図書館協議会委員の委嘱について説明があり、下記の質疑の後、異議なく承認された。

◎) 前任の委員には、図書館に関する基本的な計画を策定していただくような大きなことが、一つの委員の具体的な役割としてあったのではないかと思うが、今回新たにお問い合わせする2年間の任期の中で、図書館協議会委員に検討してもらうような大きなものなどがあるのか伺いたい。

⇒) 大きな計画について、昨年度は子供の読書活動に関する推進計画を策定したので、大きな計画策定はないが、今年度は電子図書館の導入、また先ほど説明したマイナンバーカードを活用した事業等もあるので、そういった事業を行うにあたって、委員から新しいアイデアなどをもらいたいと考えている。

◎) 電子図書館などが導入されることによって、今までやっていた既存の公立図書館のシステムやこういった役割などについて、委員の意見を聞いてもらえればと思う。そういったことについて知見のある人たちが委員に選定されているのではないかと思うが、そのように理解してよいか。

⇒) 今回の委員は、それぞれの立場から意見を言ってもらえると大変期待している。特にAさんは、市内の高齢者連合会の事務局長であり、新しい視点から意見をもらえるのではないかと考えている。

◎) 図書館法の第14条第2項に「館長に対して意見を述べる」とあるが、この委員の会議はどれくらいあるのか伺いたい。

⇒) 8月に第1回、2月に第2回の年2回を基本としているが、いろいろな案件があれば、そのたびに開催するという形をとっている。

◎) これまでに、委員から困ったことやこういうのがあったらいいとか、協議会に対する意見とか、そういう話があれば教えて欲しい。

⇒) 委員から協議会に関する意見は今のところない。委員からの意見

としては、子供に関することで、保育所や幼稚園の先生たちが、おはなし会等の出前講座をもう少し活用できないかとか、学識経験者からはもう少し土曜、日曜について、イベント等で人を集めるような催しをやってはどうかなどの意見が出たところである。

◎) 他の自治体の図書館等で利用者数が減っているという話をよく聞くが、本市はどのような状況か伺いたい。

⇒) 本市の利用者は、令和4年度は前年度より増えている。本館では、令和3年度が1年間で19万7千人、令和4年度が23万人で、3万人強増えているような状況。また貸出冊数についても令和3年度が27万6千冊、令和4年度が28万2千冊で、6千冊ほど増えている。

◎) その数字がどのぐらいのものなのかちょっと分からないが、図書館としては、もっと活字に携わって欲しいと思うのか、増えてきているからいいのか、そういう思いがあったら教えて欲しい。

⇒) 人数は増えているが、新型コロナウイルス感染症が5類になった関係で増えていると思う。コロナ前の平成30年度については、1年間で32万人ほど来ていたが、まだそこまで及んでいないこともあるので、図書館としては力を入れていきたいと考えているし、今年度電子図書館を導入するので、そういった影響がどのくらい出るかというのを3月まで様子を見ながら検討していきたいと思っている。

◎) そういった意味では、この公立図書館としての機能を市民サービスとしてどういうふうに充実させていくかという市民の声を吸い上げるのがこの委員の役割だと思う。それに適任かどうかということで、我々は判断をしたいと思う。

◎ 協議事項について

◆延岡城3D復元プロジェクトに関する連携協定について（文化財・市史編さん課）

- 文化財・市史編さん課長より、下記のとおり説明があったのち、協議を行った。

○昨年9月末に三桜電設の社長から、会社として何らかの地域貢献ができないかと検討している中で、自社に導入した3Dレーザースキャナーを活用して、市民に親しまれ、本市のシンボルでもある城山をテーマに、ボランティアとして、自社の得意分野の3D技術を駆使して、映像制作を行いたいという相談を受けたことがきっかけで今回説明する連携協定締結に向けて進めていくこととなった。

○3Dレーザースキャナーについては、レーザー光線を発射して帰ってくる時間を瞬時に計測して、その方位・時間差により、場所をXYZの3次元の点として記録するもので、デジタルの点の集合体を作成する。10m当たりの計測ポイントの幅が3mm・6mm・12mmの3種類のいずれかのピッチで点が集まるといような形の精度となる。誤差は、1度に測量する距離が10mとなった場合は1.9mm、40mでも5mmの非常に精度の高いものになる。これらの測量の点を集合すると資料の写真のような点の集合体を作成することができる。現在利用され

ている測量で、最新の方式になるとのこと。

○このプロジェクトの事業主体は三桜電設株式会社。行政関係は、石垣調査や発掘調査を行ってきた文化財・市史編さん課、城山公園を所管する都市計画課、延岡城の3階櫓などの資料を所蔵する延岡城・内藤記念博物館、歴史・文化都市推進課。学校関係では、測量体験を検討している県立延岡工業高校、民間団体としては延岡史談会にも相談されている。これらの動きはボランティアなので、関係者間の金銭授受は、基本的には発生しないことになっている。

○協定者については、事業主体者の三桜電設株式会社、延岡市、延岡市教育委員会で進めていきたいと考えている。その目的としては、3者が持つ資源や特徴を生かしながら連携協力し、3次元の復元画像やモデリング画像等を作成することとしている。連携協定の期間は協定締結日から概ね2年後となる令和7年3月31日まで。なお、締結日については、現在連携内容や成果品の取り扱い等の調整を行っており、まとまり次第締結する予定。

○プロジェクトの内容について、延岡城3D復元には大きく2つの作業がある。現地の測量と物の測量。現地の測量については、西ノ丸まで含めると範囲が拡大で、ボランティア作業としては限界があるとの申し出があったため、城山公園を対象とする。この作業については、延岡工業高校の生徒にも参加してもらい、測量体験を兼ねて実施される予定。物についての測量について、3階櫓を中心とした建物や、石垣が想定されると思うが、博物館に参考となる3階櫓と2階櫓の模型がある。これらの資料の信憑性は別としても大変有効な資料となるので、測量の対象とする。すでに模型の測量については、博物館内において試験的に行われているようである。このほかには、絵図史料や発掘調査の資料をはじめ、他の城郭の資料などを参考とすることも想定されている。

○3Dデータの利活用について、三桜電設の考えでは、ICTを使った学校現場での利用、観光PRやイベント等での利用、保存の視点からは、災害で石垣等が破損した場合の復旧にも利用可能ではないかと考えている。

○資料の4ページに図があるが、下の図が今回のプロジェクトに近い城山公園主体のエリア。これは平面図だが、完成後はパソコン上で、視点や角度、拡大縮小などが自由に操作できるものになる見込み。

○資料の5ページには、平成30年にケーブルメディアワイワイが都市計画課と、当時の文化課の協力により作成した延岡城のアプリについて掲載している。これは城山の現地に赴き、そこで撮影した映像の中に3階櫓などが浮かび上がるARと、延岡城にあった建築物や石垣を自由な場所で再現映像を見ることができVRが主な内容となっているが、今回のプロジェクトは、後者のVR的な活用になると考えている。

○今後のスケジュールについて、すでに博物館の櫓模型の撮影が一部スタートしており、概ね2年後の令和7年3月末を期限としている。

○資料6ページには3Dレーザースキャナーで読み込んだデータを映像化したものを掲載している。延岡城の千人殺しの写真について、石垣を映像化しているものだが、現地で測量した石垣の3Dデータに、実際にはないが、参考として、他の城郭の写真や図面から作成したデータを貼り付けている。このような形で、3Dの画像データが作成されていくことになる。今後完成した成果品については、博物館での公開や市ホームページ等での活用、学校や市民団体の出前講座などに幅広く活用できるものと考えている。

○今回は地域貢献のボランティアとして行ってもらうもので、本市としては大変ありがたいことであり、できるだけ協力していきたいと考えている。しかしながら、一方ではボランティアであることから、内容の精度をどの程度まで行うかといった課題もあるが、官民連携の取り組みとして、可能な限り幅広く活用できるものにしていきたいと考えており、こうした取り組みを通じて、新たな視点に立った連携や取り組みなど、何らかの事業化にもつなげていければと考えている。

◎) 大変すばらしい計画だと思う。でき上がった時に、例えば内藤記念博物館で公開ということになっているが、内藤記念博物館で常設で見られるというような形で公開になるのか伺いたい。

⇒) このデータについては、現時点ではあくまでもパソコン上で見られるという形になり、仕上がったデータを三桜電設から提供してもらう形になる。したがって、そのハードの部分については市で別途準備していく必要が出てくると思っている。公開の方法については、すでに常設展示があるが、その中でやるのか、それかロビーや2階などの空いた外のスペースで公開していくのかなどは、今後、歴史・文化都市推進課と協議することになると思う。

◎) ロマンが広がるような感じがする。これを見ながら、どういうふうに見せるかということが今後の課題かと思う。子供や市民がこれを見て、3階櫓などの無い物だとか、延岡城にこんな世界が広がっていたんだってということを本当にリアルに感じることができるよう、そういったものに仕上がっていくといいが、それなりにハード整備をやっていくと予算もかかってくる。そのあたりが今後課題になっていくだろうが、やっぱりそういった意味でも、延岡のこういった歴史にどれだけ市民が心を寄せてもらえるかっていうことは、非常に大事なところなんだろうなと感じた。

◎) 本当にすばらしいことで、本当にありがたいことだと思う。このワイワイのアプリは過去にも使ったことがあって、県外から来たお客さんが、海が荒れて出られないときなどに連れていった際にも

使っていた。イラストなど、それがスマホで「こんな感じであったんだ。」みたいなのが想像できるかできないかでも、全然楽しみ方が変わったので、すごくありがたい話だなと思う。今回はまた、工業高校の子供たちをこのプロジェクトに携わらせるっていうことも素晴らしいことだなと思っていて、それがまた今後市民に使われるようになったら、携わった子供たちもすごく自分たちが関わったことを後世にも残せるのかなと思うので、ぜひ市民とか、また今後の子供たちにも、せっかくある石垣だけじゃなくて、そういう歴史をもうちょっと探訪したり、楽しんでもらえるような利用の仕方を今後進めてほしいと思う。

- ⇒) 工業高校の生徒たちにも、実際に学校現場で授業という形で習うだけではなくて、現地のフィールドワークの一つとして、皆が知っている、皆が親しんでいるこの城山というところで、自分たちの学んでいることを生かした作業により、こういうことができるんだよということで、会社側の考えとしても、やはりそういうことを通じて、将来そういう自分たちの業界、職業にも就いてもらえるよう、関心を持ってもらうようなことにも繋げていきたいという思いもあると伺っている。そういったことも、当然教育上の観点からも重要なことだと思うので、ただ物を作るだけではなくて、作っていく過程というところも、いろんな形で、様々な人との触れ合いを通じて作成していければと考えている。
- ◎) できるなら本物を作って欲しい。延岡城・内藤記念博物館っていう立派な博物館も出来て、それでその前に延岡城のモニュメントがあれば、もっと絵になる。城山の活用方法をもっと真剣に考えないといけないと思う。城山では薪能、それから春の桜、この程度のもので、後のイベントっていうのはない。せっかく下に駐車場も出来て、そういう施設を巡ることができると思う。公園を活用する名案ができたらいと思う。延岡7万石を象徴できるような、市民が見て、延岡は城下町だぞということが言えるような、何かその印象深いものっていうのを作っていただくとありがたいなと思う。
- ◎) こういった文化振興に関するところは歴史・文化都市推進課が持っているので、ぜひ今の意見等は課長から伝えてほしい。ちなみに、この教育委員会で文化振興を市長部局に渡すということで、一昨年度議論した。あのときに、私たちが付帯事項で、文化振興を市長部局に出す代わりに、子供たちへのそういった教育の部分のところは忘れないでくださいねっていう話があったかと思う。今その関連も委員が言われたことも関連するんだと思う。実は子供たちが内藤記

念博物館や野口遵記念館も延岡城もそうだが、ここを見学するための一番ネックになるのが移動であった。このバス代については予算化してあるので、出来たところへ来て、今のような話なども聞きながら、子供たちがこの延岡市の歴史について理解をして誇りに思うということ、来ただけではそうはならないだろうから、そういう話やここで何を学ぶかっていうことを、ここはカリキュラムの話になってくるかと思うので、ぜひそういったことを連携しながら、せっかく文化財・市史編さん課がこういった事業をやろうということになると、学校教育関連も必要になってくる。それぞれ忙しくて、連携すると言ってもやっぱりマンパワーが不足するので、こういったことをどう解消していくかっていうことについてはまた考えていけないといけないのかなと思っている。ぜひ皆さんの意見を踏まえながら、次年度のことをまた構想していきたいと思う。

◎ その他

◆ 赤水町の日高家住宅について（文化財・市史編さん課）

- 赤水町の日高家住宅について、6月23日（金）に国の文化財文化審議会から、国の重要文化財指定に向けた答申が出されることについて報告があった。

◎) こういった重要文化財としての指定を受けたこの日高邸をしっかりと文化財として保存していくのは、当然我々教育委員会の責任だと思うが、食事を提供することなど、こういった活用について、市役所の中での教育委員会としての役割と市長部局としての役割について整理はついているのか伺いたい。

⇒) 非常に難しい部分があるが、日高さんとは、文化財・市史編さん課が文化財に関する市の窓口として一本化して話をしている。今後の利活用について、観光面での活用ということも当然出てくるかと思う。しかしながら個人の住宅でもあり、他の自治体でも個人住宅の場合はなかなか公開に至っていないところもあるようである。一方で期間を区切って公開したというところもある。そういった部分の調整については、日高さんとの話の中では、今のところ観光部局というよりも、私達のほうがずっと指定に向けて調整をしてきた流れがあるので、文化財・市史編さん課を窓口として進めていきたいという強い思いがあるようである。しかしながら、観光の方でも、当然観光戦略課、歴史・文化都市推進課も連携していく必要があるので、その点については、ケースバイケースになるかと思うが、私達が主体となったり、場合によっては私達を通じて歴史・文化都市

推進課や観光戦略課に話をつないだりというようなことで、徐々に全体が連携をとれるような形で持っていければと考えている。

- ◎) 行政の縦割りの難しさだろうと思う。市民からすると、一本化して一元的にやってほしいという気持ちもあるのだろうが、いずれにしても施策として予算化したりとか、今後いろいろ出てくる保護活動についても、文化財なので私たちが責任を持ってやらなければならないと思う。そういったことについての棲み分けや協議は、またぜひ市長部局とも連携しながらまとめてもらえるとありがたい。なぜかという、我々が何を議論するか、我々が責任を持ってどうするんだっていう議論もできないので、そのこのところをしっかりと線引きはさせてもらいたいと思う。
- ◎) まずは見てみたい。自分たちが体験したい。
- ◎) 委員に理解していただくことも大事だと思うので、またそこは日高さんとも話をできるか伺いたい。
- ⇒) これは教育委員だけではなく、議会や他の自治体からの視察なども出てくると想定している。そういった点について日高さんともいろいろ話をしている真っ最中だが、日高さん夫妻の考えとしては、単に見てもらうだけではなくて、食事となった場合は経費が発生するが、食事自体も地元産品を使ったものを出して、そういったものから修理・保存に使う部分を自分たちで少しでも取り入れていきたいということを考えていたようである。また、日高さんがいろんなことをしている関係で、可能な限り土曜日でお願いしたいというようなことが出ている。その点については、また相談させてもらいたいと思っている。
- ◎) 我々がちゃんとどういう価値があるかということを理解すること、ここでの議論に大きな影響があるのでよろしく願います。

◆ 7月定例教育委員会の日程について（総務課）

- 7月定例教育委員会については、7月26日（水）の13時30分から、災害対策本部室で開催する。

◎ 閉会

澤野教育長が閉会を宣し、終了した。（14：35）